



## イガツブゲンゴロウ

(学名 *Laccophilus shinobi* ラッコフィルス シノビ)  
ゲンゴロウ科 ツブゲンゴロウ亜科 ツブゲンゴロウ属

伊賀のレッドデータブック作成委員会 代表 武田 恵世

コラム  
**大発見!**

2004年4月に私が発見した新種です。2021年に学会発表され新種に登録されました。世界中で伊賀市にしかいません。体長4.1mmの超小型のゲンゴロウで、卵型で黄褐色の地にこげ茶色の細かな縦じま模様があります。近縁のニセルイスツブゲンゴロウに比べ、やや大きく、色合いや模様、翅(はね)、雄の交接器に違いがあります。翅の構造から飛べないのではないか?とも言われています。伊賀市の小さなため池でのみ確認されています。超小型なので、水の表面張力が脅威のようで、一滴の水滴に入れるとなかなか出られなくなってしまいます。水面から出るには、水草などにつかまって、ドッコイショという感じで苦労して出てくるので、生息には水草の多い水辺が必要なようです。発見から19年、伊賀市でも小さなため池やそれを水源とする谷間の小さな水田が廃止されることが増え、絶滅の恐れが出てきています。

同じく水草の多い水辺に生息する極小のゲンゴロウには、ヒメゲンゴロウ亜科、マメゲンゴロウ属、ケシゲンゴロウ亜科、チビゲンゴロウ属、ツブゲンゴロウ亜科、コツブゲンゴロウ科など多くの種類がいます。ヒメ、マメ、ケシ、チビ、ツブ、コツブとあまり統一性がないですが、小さいことがよくわかる名前です。これらの内、伊賀のレッドデータブックに記載した珍しい極小のゲンゴロウの仲間はオオヒメゲンゴロウ、ニセルイスツブゲンゴロウ、コガシラミズムシです。

現在、伊賀市環境保全市民会議の伊賀のレッドデータブック作成委員会では伊賀地方(旧伊賀国内、伊賀市と名張市)のこうした絶滅の恐れのある希少な動植物リスト、伊賀のレッドデータブックの改訂作業を行っています。ぜひご協力ください。特に、イガツブゲンゴロウのような極小の水生昆虫を見つけられたらぜひ事務局までお知らせください。

イガツブゲンゴロウは生態や生息環境に謎が多く、長年伊賀で忍び続け、遂に存在が見破られたのに、絶滅してしまわないように、地元の皆さんや伊賀市と共に守って行きたいものです。

いろいろな事業のうち、ご自分にあったものにご参加いただければ結構です。ですので、どうぞお気軽にお問い合わせください。事務局へお問い合わせください。団体です。



あなたの参加をお待ちしています。お問い合わせは…

## 伊賀市環境保全市民会議事務局

〒518-8501 伊賀市四十九町3184番地  
TEL 22-9624 FAX 22-9641

発行責任者:伊賀市環境保全市民会議

※本誌バックナンバーが若干残っています。  
ご希望の方はご来庁くださるか、84円切手を貼った返信用封筒を同封のうえ、事務局までお送り下さい。

## 伊賀市環境保全市民会議

しぜん

No.80

令和5年(2023年)11月1日発行

豊かな恵みのなかで、  
人と自然が共生するまち伊賀

**回覧**



8月19日(土)、「2023市民夏のにぎわいフェスタ」が行われ、伊賀市環境保全市民会議は、昨年に引き続き「ペットボトルで作るリサイクル風鈴づくり」で参加しました。

これまで、私たちはこの事業への参加を通して、伊賀市の環境に目を向けてもらったり、自然環境にやさしい生活を提案したりしてきました。

今年は、久しぶりに銀座通りを歩行者天国にしての開催で、多くの市民が行き交う中での出店でした。

風鈴は、500ml程度のペットボトルの上の部分を切ったものを用意し、そこに参加者にカラーペンで絵をかいだり小さなシールをはりつけたりして飾って、その下にウインドチャイムを取り付けて風が吹くととてもいい音が出るようにしたものです。

参加者からは、「子どもがとても楽しんでいた。身近なもので作れてよかった。」「ペットボトルがこうやって再利用できるのも知れてよかったです。」など、おほめの言葉をいただきましたが、お願いしたアンケートでは、環境保全市民会議を知っているという人が約2割と、とてもさびしい結果となりました。

私たちは、このような機会や環境ウォッチングや環境セミナーなどの事業を通して、環境保全市民会議をもっと知っていただき、みんなで暮らしやすい環境を作っていくたいという思いを強くしました。



ペットボトルでリサイクル風鈴作りをしました

## 令和5年度の活動方針

- ① 「環境セミナー」などによる環境に関する調査研究
- ② 稀少生物ならびに生息環境の調査や保護(ビオトープの整備等)
- ③ 夏祭り等を活用した環境教育活動の実施
- ④ 伊賀市環境保全啓発ボスターに市民会議会長賞として表彰
- ⑤ 「クリーンウォーキング」の実施
- ⑥ 伊賀のRDB改訂検討及び三重県RDB調査への協力
- ⑦ 会報「しじん」や市広報を利用した情報発信(年2回)
- ⑧ その他

今年の3月、伊賀市は「伊賀市環境基本計画」を策定し、三重県は「三重県地球温暖化対策総合計画」を改定しました。それと2030年度までの温室効果ガスの削減目標を掲げており、削減に向けた取り組みを行うとしています。今後も地球温暖化対策が大きな課題となっています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に気を付けながらクリーンウォーキングや環境ウォッチングを実施しました。また、環境セミナーとして三重大学の立花先生に「地球温暖化に伴う異常気象」と題して、ご講演いただき、それを会報「しじん」の記事として、広く市民のみなさまに情報発信を行いました。

講演会の中では、問題となっている異常気象について、地球温暖化はなぜ起るのかについての説明だけでなく、地球温暖化による異常気象が引き起こす問題に国同士が協力して問題を解決していく必要があり、これから日本を担う世代への環境教育が必要であると教えていただきました。

本年度は、地球温暖化問題も含む「地球上の誰一人として取り残さない」持続可能で包摶性のある社会の実現を目指した17の国際目標（ゴール）である「SDGs」の達成に向け、環境問題への取り組みの必要性を認識してもらうことを目指しています。

また、従来から取り組んでいます、地域の自然保護活動に関する事業、特に策定から15年以上が経過している「伊賀のレッドデータブック」に係る現状把握のための調査及びその他環境問題に係る学習会、ビオトープの整備及び存在する動植物の移転を実施していきたいと考えています。

このようなことが実現できるためにも、次の点を中心とした活動を推進してまいります。

## 市民会議では、今後、次の行事を予定しています。

環境セミナー	【第1回】R5年11月4日(土)午後1:30～ 場所:上野東部市民センター 5階 第7会議室 内容:マイクロプラスチックによる海洋汚染 講師:四日市大学環境情報学部 特任教授 千葉 賢
	【第2回】R6年2月10日(土) 内容等は未定です
クリーン ウォーキング	【第1回】R5年12月3日(日)午前9:00～ 場所:上之庄周辺の国道R368号線沿い(予定)
	【第2回】R6年2月24日(土)午前9:00～ 場所:久米川流域を地域の皆さんと一緒にゴミ拾いを行います
環境ウォッチング	第2回R6年1月(予定) 場所:三重県上野森林公園 内容:冬鳥を中心にバードウォッチングを行います

詳細が決まりましたら、改めて募集させていただきますので、ぜひご参加ください。

また、日程については(下記含む)予定であり、変更する場合がありますのでご了承ください。

集合場所など詳細は事務局までお問い合わせください。多くの皆さんのご協力をお願いします。



## 環境ウォッチングを実施しました



10月1日(日)、上野南中学校の駐車場に集合して、今年度第1回環境ウォッチング「ゲンゴロウの仲間の観察会」を行いました。

当日は、16人の参加者が手にタモやバケツを持ち、集まってくれました。

「ゲンゴロウ」というと、みなさんはどんな生物を思つかれますか？ ゲンゴロウの仲間は水辺(水中)に住む昆虫で、飛ぶこともできる行動範囲の広い昆虫です。一般的に言うゲンゴロウは、全長3cm以上もあり、4cm近くになることもある大きなものですが、生育環境の悪化や乱獲などにより激減していて、図鑑などには分布は北海道から九州まで全国となっていますが、伊賀でもめったに見ることができません。環境省レッドリストでは、絶滅危惧II類となっています。

今回の環境ウォッチングでは、そのような絶滅に瀕したゲンゴロウの仲間を観察し、生物の存在を通して伊賀の環境を見るのが目的の一つでした。結果としては、調査した場所では、まだため池や水路など、ゲンゴロウの仲間を中心に水生昆虫が生活できるところが残っていることがわかりました。しかし、伊賀市全体を見てみると、こうした環境が減少していることも分かっています。

講師は、4面に新種に認定された「イガツブゲンゴロウ」について寄稿していただいた、本会議の伊賀のレッドデータブック作成委員長の武田恵世さんがつとめてくれ、たくさんの種類のゲンゴロウの仲間やその他水生昆虫を確認してもらいました。



### 《レッドデータブック》

- ・ 環境省がレッドデータリストとして作成した絶滅のおそれのある野生生物の種のリストです。国際的には
- ・ 国際自然保護連合(IUCN)が作成しており、国内では、環境省のほか、地方公共団体やNGOなどが作成しているものです。
- ・ 環境省では、日本に生息・生育する野生生物について、生物学的な観点から個々の種の絶滅の危険度を評価しています。動物については、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類、昆蟲類、陸・淡水産貝類、その他無脊椎動物の分類群ごとに、植物については、維管束植物、蘚苔類、藻類、地衣類、菌類の分類群ごとに作成されています。
- ・ 三重県では、「三重県レッドデータブック」が作成されていますが、伊賀市の方には作成している自治体はありませんでした。本年度に、鳥羽市が海に限って「海のレッドデータブック」として発行されたのが市町2例目になりました。しかし、伊賀のレッドデータブックを発行してから18年がたとうとしています。そこで、今年度から掲載した動植物の再調査を始め、再来年20年目に新しい伊賀のレッドデータブックを作成したいと考えています。